

# 国立国会図書館月報

稀本あれこれ-481- 『シェイクスピア戯曲集』(1825)

- 1 特集 書誌調整
- 2 平成19年度書誌調整連絡会議を終えて
- 7 雑誌記事索引のご紹介
- 13 書誌データの遡及入力の実施状況について
- 17 最近NDL-OPACで検索可能となった資料群の紹介
- 18 ユニコードとセマンティックウェブの基礎知識—館内講演会から
- 22 第5回韓国国会図書館との業務交流

- 
- 21 館内スコープ
  - 30 本屋にない本
  - 33 月例報告
  - 33 国立国会図書館の編集・刊行物
  - 34 NDL news
  - 37 使う人がいる、守る人がいる。  
(3) 利用の多い住宅地図の状態と補修対策、資料管理
  - 38 ビジュアル国立国会図書館博物館 (10)

<お知らせ>

- 21 常設展示のお知らせ
- 26 平成20年度国立国会図書館職員採用試験の実施について
- 34 図書館間貸出制度の加入申請方法が変わります
- 35 国際子ども図書館展示会「チェコへの扉—子どもの本の世界」関連講演会の開催について
- 36 アジア言語OPACでヒンディー語、サンスクリット語図書が検索可能となりました

4月号から  
月報は  
変わります

# 3

# 2008

# No. 564

# 国立国会図書館利用案内

- 東京本館** 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331  
利用案内 電話 03 (3506) 3300 (音声サービス)  
電話 03 (3506) 3301 (FAXサービス)
- 関西館** 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話 0774 (98) 1200 (音声サービス)  
利用案内 電話 0774 (98) 1212 (FAXサービス)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

- 利用できる人** 満18歳以上の方
- 資料の利用** 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
- 開館日** 月曜日から土曜日
- 休館日** 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日（第3水曜日）
- 所蔵資料** 当館の所蔵資料は、納本、購入、国際交換、寄贈等によって収集され、東京本館、関西館、国際子ども図書館に分散して配置されています。

＜東京本館のおもな資料＞和洋の図書、和雑誌、洋雑誌（年刊誌、モノグラフィシリーズの一部）、和洋の新聞、各専門室資料

＜関西館のおもな資料＞和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

## ----- 東京本館のサービス時間 -----

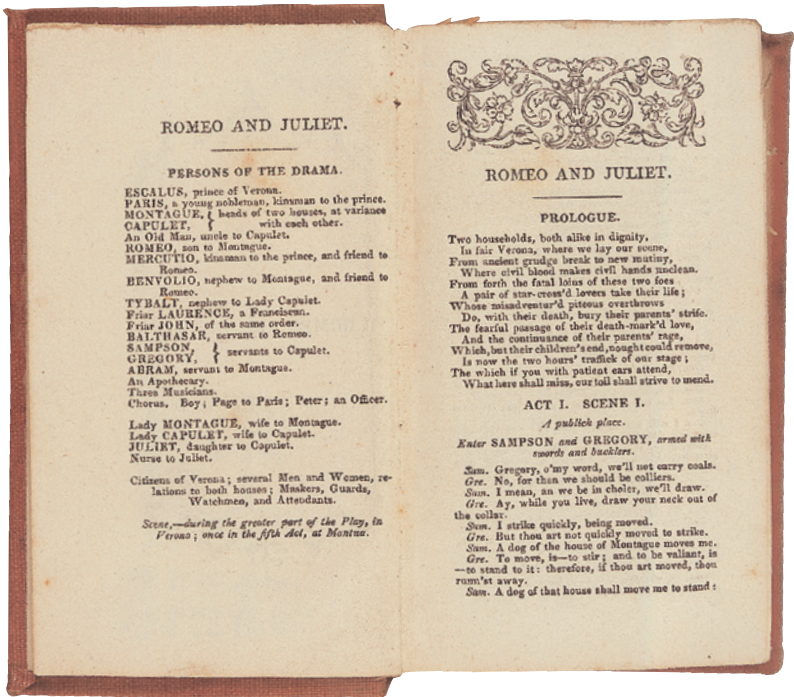
- 開館時間** 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00  
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。
- 資料請求時間** 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00  
※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。
- 即日複写受付** 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
- 後日複写受付** 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
- オンライン複写受付** 月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30

## ----- 関西館のサービス時間 -----

- 開館時間** 10:00～18:00 **即日複写受付** 10:00～17:00
- 資料請求時間** 10:00～17:15 **後日複写受付** 10:00～17:45
- セルフ複写受付** 10:00～17:30 **オンライン複写受付** 10:00～17:00

※詳しくは当館ホームページをご覧ください。

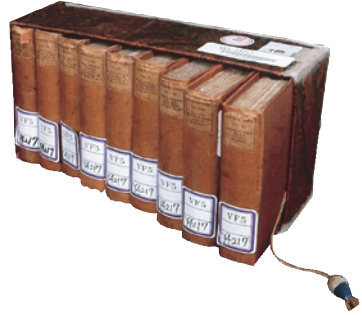
『シェイクスピア戯曲集』(1825)



『ロミオとジュリエット』の冒頭頁 (原寸大)

## 『シェイクスピア戯曲集』 (1825)

本書は19世紀前半のイギリスを代表する書籍商・出版業者ウィリアム・ピカリング〔William Pickering〕(1796-1854) によるDiamond Classics第8作目で、シェイクスピアの戯曲37編と語彙集を取録している。全9巻揃えて、左右に渡した紐で箱から引き出す仕組みになっている(写真)。茜色のクロス装はオリジナルのままである。1820年から1830年にかけて16折版で全13点が刊行されたDiamond Classicsシリーズは、ダイヤモンド・タイプ(4.5ポイント)の活字を用いた微細な印刷の美しさ、版元製本では初のクロス装の採用、古典作品をそれぞれの原語(ラテン語・イタリア語・英語・ギリシア語)で収録したテキストなどにより人気を博した。本書の背表紙に見られる2cm角の紙ラベルは、布地に箔入れをする器具が開発された1832年以前にタイトル等を記すために用いられた手法であり、製本技術の発展段階を示すものとして興味深い。第9巻の巻末見返しに“Versailles juillet 1909”(1909年7月ヴェルサイユにて)と書込みがあるが詳細は不明である。第二次大戦後にアルゼンチンの原商会・原昇氏が購入し、私設図書館「素人文庫」の蔵書とした後に当館に寄贈され1992年に「原昇コレクション」となった。なお当館には、Diamond Classics 4点を含め計15点のピカリング刊行書籍が所蔵されている。



ピカリングの出自については明らかではないが、愛書家としても有名なスペンサー伯ジョージ・ジョン・スペンサー(1758-1834)の庶子とされている。14歳の時にロンドン・ビショップスゲイトの書籍商・出版業者の下で徒弟修業を始めた後、1820年にリンカンズ・イン・フィールズに店を構えた。ルネサンス期ヴェネツィアの著名な学匠印刷家アルド・マヌーツィオ(c.1452-1515)の「錨とイルカ」を模した商標を用いたことでも知られる。アルドの名を冠した『オルダイン英国詩人叢書』*Pickering's Aldine Poets*は廉価版古典叢書の嚆矢であり、1830-44年に53巻が出版された。ピカリングは書籍の大衆化、出版量の増大が進んだ19世紀前半イギリスの商業出版業界において、テキスト・活字書体・装丁の標準を高めた人物と評され、その出版活動をまとめたものとしてGeoffrey Keynes(1887-1982)による書誌*William Pickering Publisher*(1924)がある。

さいとう まい こ  
(斉藤真生子)

Shakespeare, William (1564-1616)  
*The plays of Shakespeare, in nine volumes.*  
London: William Pickering, 1825. 9v.  
<請求記号 VF5-Y4217>

## 特集 書誌調整

図書館の資料は、単に集めただけでは使えるようになりません。必要な資料を見つける手がかりとして、図書館の目録、あるいは書誌の出番があります。目録、書誌の作成によって資料の情報を「組織化」し、著者の名前、テーマなどいろいろな情報から検索できるようにする、また、そのための方法を整備する働きとして「書誌調整（書誌コントロール）」があります。

国立国会図書館は、日本で唯一の国立図書館として、日本の出版物の記録である『日本全国書誌』を編さんする役割をもつほか、書誌調整にかかわるさまざまな活動を行なっています。

この特集では、昨年11月に開催された「書誌調整連絡会議」のほか、雑誌記事のデータベースとして日本最大の「雑誌記事索引」、冊子やカードの形で蓄積してきた膨大な書誌データをOPACで検索できるようにする「遡及入力事業」、書誌データを作成し提供する技術に関する話題として「ユニコード」と「セマンティックウェブ」についてご紹介します。

進み行くデジタル時代において、書誌調整をどのように展開していくかは世界の図書館の共通のテーマです。次のステップを、ともに考えていただければ幸いです。

## 平成一九年度書誌調整連絡会議を終えて

平成一九年一月一六日、国立国会図書館（東京本館）において「平成一九年度書誌調整連絡会議」を開催しました。この会議は、国内の書誌調整および書誌データの標準化を図ることを目的に、書誌データの作成および提供に関する諸事項について関係諸機関と定期的に協議を行うものです。今回は、「書誌データの作成および提供 新しい目標・方針の設定」をテーマとして意見交換を行ったほか、国立国会図書館（NDL）および国内外の書誌データに関する取組みの報告を行いました。出席者は6ページ表のとおりです。

### 一 館外、館内の動向の報告

書誌データの作成・提供―平成一九年度のおもな動き

本橋修（書誌部書誌調整課課長補佐）  
 ○『日本全国書誌』冊子体の終刊―ホームページ版へ一本化―

平成一九年三月に国立国会図書館法が改正された。第七條の「日本国内で刊行された出版物の目録又は索引の出版を行う」という文言が、「日本国内で刊行された出版物の目録又は索引を作成し、国民が利用しやすい方法により提

供する」となり、状況に応じて適切な提供方法を選択できるようにになった。これに伴い、冊子体の『日本全国書誌』を六月末に終刊し、ホームページ版へ一本化した。

○国立国会図書館件名標目表（NDLSH）二〇〇六年度版の提供

国立国会図書館件名標目表（NDLSH）二〇〇六年度版は、平成一八年九月にソーラス化等の改訂作業を終え、平成一九年六月に改訂内容をすべて反映したものととして提供している。提供件数は、見出し数（「を見よ参照」を含む）で四五、七四八件にのぼる。これは、平成三年の第五版冊子体の二二、五二四件に比べ約二倍の件数である。

○「国立国会図書館データベースデータ記述要素（DCI・NDL）」を公表

平成一九年七月に「国立国会図書館データベースデータ記述要素（DCI・NDL）」を公表した。これは、二〇〇一年に定めた「国立国会図書館メタデータ記述要素」の改訂版である。同時に、「NDLデジタルアーカイブシステム・メタデータベース（以下「DAシステム・メタデータベース」）も公表している。こちらは記述メタデータとしてMODS（Metadata Object Description

(Schema)を採用している。この結果、NDLには二つのメタデータ基準が存在することになるが、DC-NDLは交換用メタデータ、DAシステム・メタデータスキームは、保存用メタデータとして位置づけている。DC-NDLの使用例として、二〇〇七年一月一日から一般公開した「国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)」がある。現在、全二〇種類のアーカイブ内の情報が検索可能である。

### 第九三回全国図書館大会第八分科会報告

#### 「ネットワーク環境下の主題検索」

柴田正美 (日本図書館協会件名標目委員会委員長)

全国図書館大会で資料組織化・情報組織化に関する分科会が開かれたのは、一九九二年愛知大会以来である。予想以上の参加があり、「主題検索」が図書館界全般で大きな課題として認識されていることが明らかになった。

以下の二つの報告の後、ディスカッションを行った。

「誰が、主題を認識するのか」(緑川信之報告)

「主題検索ツールの将来」(渡邊隆弘報告)

渡邊先生の報告では、米国議会図書館の最近の話題を背景に、今後の資料組織化は利用者指向型に向かうのか、それとも検索ツールを中心にOPACを変化させていくのかという問題提起があった。

参加者によるディスカッションでは、利用者が考える「主

題」と提供する側が考える「主題」に食い違いがあるために、件名システムや主題検索システムが使われないのではないかという意見が出された。その一つの解決策が、緑川先生の報告にあるフォークソノミーで、利用者が自由にタギングデータ(検索用のデータ)を入れていくと、それが統制語に近い形に収れんしていくのではないかと、いうものである。こうした新しい動きと図書館が提供する主題検索の世界を両立させながら、利用者志向のシステムを目指していこう、というのが結論であった。

#### IFLAダーバン大会参加報告

中井万知子 (書誌部副部長)

二〇〇七年八月一九日から二三日まで、南アフリカのダーバンで開催されたIFLA大会の書誌データ関係のセッションに参加した。

「デジタル時代の全国書誌ガイドライン」、FRAD (Functional Requirements for Authority Data 典拠データの機能要件)、FRSAR (Functional Requirements for Subject Authority Records 件名典拠レコードの機能要件)の検討状況について報告があった。

また、目録分科会の公開セッションでは、国際目録原則改訂に向けての動きとして、IMERIC (IFLA目録専門家会議)が五大大陸を巡回し終え、現在、最終取りまとめの段階であるとの報告があった。



## 二 書誌データの作成および提供 新しい目標・方針の設定

### NDLの新しい方針の検討状況

中井万知子（書誌部副部長）

インターネットの情報サービスの進展は著しく、海外でも「目録の危機」に関する調査報告や提言が多くなされている。NDLでも書誌データを今後どうしていくか考えていかななくてはならない。そこで、二〇〇七年四月から班体制を立ち上げ、NDLの書誌データの役割や現状と課題等をふまえた方針案を検討している。九月段階の一次案では、次の五点の方針を定めた。

方針一 データの開放性を高め、Web上での提供を前提として、多様な方法で容易に入手、活用できるようにする。

方針二 情報検索システムをもっと使いやすくする。

方針三 電子情報資源も含めて、多様な対象をシームレスにアクセス可能にする。

方針四 データの有効性・効率性を高める。

方針五 外部資源、知識、技術を活用する。

この方針を二〇〇七年度中に定め、二〇〇八年度から具体策を順次実行していきたいと考えている。

### NACSIS-CAT/ILL次世代目録所在情報サービス検討状況

相原雪乃（国立情報学研究所）

NACSIS-CATは、一九八五年に稼動して以来安定的に運用してきたが、時代の変化に伴い課題が出てきたため、「次世代目録ワーキンググループ」を設置し、二〇〇七年から検討を進めている。

効率的な入力のための運用モデル、出版データの有効活用、電子情報資源の運用方式、データベース構造の見直し等の課題について、利用者・参加館の意見を取り入れながら、二〇〇七年度末まで検討を続ける。年度末に報告書を公開し、パブリックコメントを募集する予定である。

### コメントータからの主な発言

○上田修一（慶應義塾大学教授）

NDL-OPACや『雑誌記事索引』データベースは、国内外の不特定多数の利用者が様々なニーズで利用する、文字どおりの全国的な情報基盤となっている。Webには古い情報が乏しいが、このたび登場したPORTAは、そのような古い情報を統一したインターフェースで検索できるエンジンとして存在意義があるだろう。

図書館が想定しているOPACの利用者と、実際の利用者の使い方の間には大きな隔たりがあるらしく、現在のOPACは出発点から間違っているのではないかという疑問を拭いきれない。OPAC2.0といった改善ではなく、



目録データに付加価値を高める方向もあるのではないかと。

○北克一（大阪市立大学大学院教授）

NDLには、JAPAN/MARCCや書誌という点では、内容細目の構造化をして欲しい。

目新しいことをやるならとにかくスピードが必要である。書誌ユーティリティ、デジタル情報のアーカイブを開発する際、企画・予算確保・入札・調達を経た結果、時代遅れのシステムになるようでは時間がかかりすぎである。

「なぜGoogleにすべてのデータを預けないのか?」という質問に対して、一般の人が理解できるようなきちんとした説明が必要である。国民一般向けの「カレントアウェアネス」のようなものはできないだろうか。

○根本彰（東京大学大学院教授）

昨年度、全国の公立図書館等を対象に地域資料に関する調査研究を行った。図書・雑誌・新聞・地図等の他、新聞切抜きやコミュニティ誌等、色々な種類の地域資料が所蔵されていることが分かったが、一方で、整理状況を見ると未整理のものがかなりあった。

また、最近ではOPACがあるので県内書誌等地域資料についての専用のツールは作る必要がなくなつたと考えられているようだが、OPACが地域書誌として使えるかどうかを調査してみると、地域資料の書誌を絞り込めない状態のところもあった。この点は改善が望まれるのではないかと。

○宮澤彰（国立情報学研究所教授）

書誌調整はそもそも一つの図書館のものではない。NDLはNational Libraryとして、県立・市町村立、大学、専門図書館を含めた国全体のライブラリー・システムのために何ができるかという視点を持つてほしい。

書誌調整に代わる、digital resourceを含めた新しい概念を作り出さなくてはいけない。digital resourceにおける図書館コミュニティの役割は、どちらかというと保存にあるのではないかと。Web上の情報は、機関リポジトリや電子図書館等で、データを利用できるように適切に保存される体制があつて初めて、かつての「出版」にあたる社会的な機能を果たしたことになるのではないかと。

意見交換

PORTA公開をはじめとする近年のNDLの取組みや方針案の内容に関して、多くの質問、活発な意見が出されました。また、NDLに望むこととして、書誌データのダウンロード機能の実現、NDL-OPACの機能拡充、大学図書館等とのメタデータについての議論の活性化等がありました。

まとめ

当会議の議論をふまえて、NDLが今後進むべき書誌コントロールの方向性について検討していきます。また、具

平成19年度書誌調整連絡会議 出席者

- |       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 相原 雪乃 | 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長          |
| 上田 修一 | 慶應義塾大学文学部教授                         |
| 大串 純子 | 東京都立中央図書館サービス部資料管理課整理係目録管理担当係長      |
| 金中 利和 | 日本図書館協会分類委員会委員長                     |
| 北 克一  | 大阪市立大学大学院創造都市研究科教授                  |
| 柴田 正美 | 日本図書館協会件名標目委員会委員長、帝塚山大学心理福祉学部学部長・教授 |
| 多田 智子 | 早稲田大学図書館資料管理課長                      |
| 常世田 良 | 日本図書館協合理事・事務局次長                     |
| 根本 彰  | 東京大学大学院教育学研究科教授                     |
| 宮澤 彰  | 国立情報学研究所情報社会相関研究系教授                 |
| 山崎 博樹 | 秋田県立図書館企画・広報班副主幹                    |
| 米澤 誠  | 山形大学学術情報学部学術情報ユニット長<br>(以上敬称略、五十音順) |
- (国立国会図書館)
- |       |              |
|-------|--------------|
| 那須 雅熙 | 書誌部長         |
| 中井万知子 | 書誌部副部長       |
| 倉光 典子 | 書誌部主任司書      |
| 本橋 修  | 書誌部書誌調整課課長補佐 |

「書誌データの作成および提供」に掲載しています。  
 「NDL書誌情報ニュースレター」第二号参照  
<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/conference.html>  
[http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib\\_newsletter/backnumber/002/index.html#03](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/backnumber/002/index.html#03)

(書誌部書誌調整課)

体的な連携のテーマについて関係諸機関と協同する体制を  
 務めていきたいと考えています。

書誌データ関係のWebページが新しくなりました！  
 (ホームページ>図書館員の方へ)

書誌調整についての最新動向や書誌データについての様々な情報は、国立国会図書館ホームページでもお知らせしています。ぜひこちらもチェックしてみてください。

『NDL 書誌情報ニュースレター』

([http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib\\_newsletter/index.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/index.html))

このニュースレターでは、書誌に関する様々な最新動向をいち早くお知らせします。「コラム 書誌データ探検」では、普段分らないままやり過ごしてしまう書誌データの疑問について、毎回、少しマニアックに探求しています。

『書誌データの作成および提供』

([http://www.ndl.go.jp/jp/library/data\\_make.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data_make.html))

今回の書誌調整連絡会議の記録を含め、書誌調整に関わる情報や、書誌データを作成する際に参照する各種の資料を掲載しています。また、このたびページをリニューアルし、見やすい構成になりました。書誌データの見方が分からないと思ったことのある方は、この機会にぜひ一度のぞいてみてください。

## 雑誌記事索引 | 21 - 40(55件)

21. [地球温暖化—ハイリゲンダムサミットからCOP13CMCP3.海峽湖サミットへの国際社会の動向\(特集 地球環境問題この1年\)/ 亀山 康子](#)  
資源環境対策 43(15) (通号 603) [2007.12]
22. [フーテン「スポンサー大富豪」が洞爺湖サミット会場に「極秘逗留」\(ワイド 秘話\)](#)  
週刊新潮 52(18) (通号 2595) [2007.5.17]
23. [十賢人が語る世界の理 炭素税の理論的支柱 東京大学名誉教授 宇沢弘文 温暖化は人間の生活を破壊「比例的炭素税」を導入せよ\(2008 全解明 激動のすべてを先読み\) — \(深刻化する環境問題、持続的な成長は可能か—08年洞爺湖サミットの最重要課題は温暖化、どうするニッポン。\)/ 宇沢 弘文](#)  
週刊東洋経済 (6119) [2007.08.12・1.29・5]
24. [十賢人が語る世界の大変革『成長の限界』の著者 インタラクティブ・ラーニング研究所所長 デニス・ホフス エネルギー危機に對し日本独自の解決策を示す\(2008 全解明 激動のすべてを先読み\) — \(深刻化する環境問題、持続的な成長は可能か—08年洞爺湖サミットの最重要課題は温暖化、どうするニッポン。\)/ Dennis L. Meadows](#)  
週刊東洋経済 (6119) [2007.08.12・1.29・5]
25. [十賢人が語る世界の大変革 経済学で語る「英国のゴア」 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス教授 ニコラス・スターン 経済と技術の大国、日本が動かしきれない誰も動かしきれない\(2008 全解明 激動のすべてを先読み\) — \(深刻化する環境問題、持続的な成長は可能か—08年洞爺湖サミットの最重要課題は温暖化、どうするニッポン。\)/ Nicholas Stern](#)  
週刊東洋経済 (6119) [2007.08.12・1.29・5]
26. [アジアの成長は維持できるか 東アジアの高齢化は目前 2015年に「人口ボーナス」消滅\(2008 全解明 激動のすべてを先読み\) — \(深刻化する環境問題、持続的な成長は可能か—08年洞爺湖サミットの最重要課題は温暖化、どうするニッポン。\)/ 大泉 啓一郎](#)

## 雑誌記事索引のご紹介

国立国会図書館の提供するNDL-OPAC (<http://opac.ndl.go.jp/index.html>) の中で最も利用の多い雑誌記事索引は、国立国会図書館と同様に今年で六〇周年の節目を迎えます。これを期に、改めて雑誌記事索引についてお伝えすることで、みなさまの調査の便に役立てていただければと思います。

### ● 雑誌記事索引とは

雑誌記事索引は、文字どおり雑誌に収録されている記事そのものを検索できるように記事ごとに索引をつけ、記事タイトル中に含まれている言葉から検索することのできるデータベースです。

納本制度により受け入れられた年間約六五万冊の雑誌の中から約一万誌を対象として入力(「採録」と呼んでいます)を行っており、NDL-OPAC雑誌記事索引のデータには、毎週月曜日に一週間分、約八四〇冊九、二〇〇件が新たに追加され、これまでに八〇〇万件を超えています。

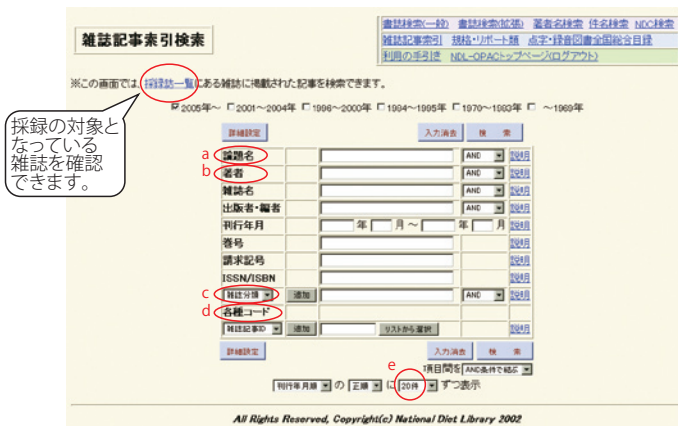
膨大な所蔵雑誌の中から対象誌が選ばれるため、その中にはバラエティーに富み、専門誌の文献リストより幅広く探せると評判です。調査研究のための論文検索や、レポート作成のための文献リスト作りにはなくてはならない存在です。

### 多様な採録誌 (例)

- ・月刊廃棄物
- ・プラズマ・核融合学会誌
- ・すばる
- ・自転車・バイク駐車場
- ・養豚の友
- ・栄養と料理
- ・甲冑武器研究
- ・鉄道ピクトリアル
- ・ボイラ研究
- ・Boss
- ・人民中国
- ・芸術新潮
- ・宇宙航空環境医学
- ・月刊食堂
- ・ニユースウィーク
- ・週刊ポスト
- ・週刊朝日
- ・世界遺産年報
- ・神奈川県環境科学センター業務報告
- ・別冊太陽

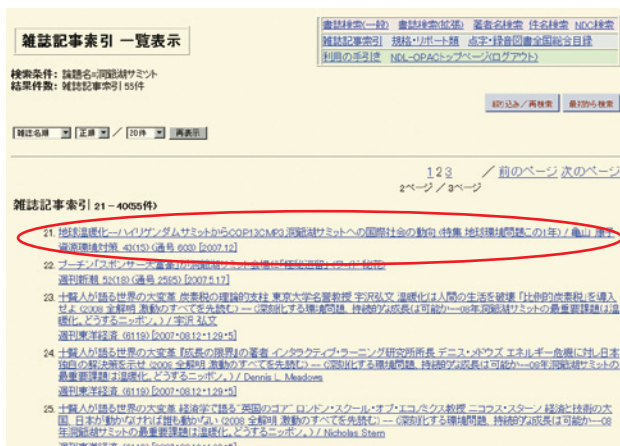
例えば「洞爺湖サミット」について調べてみることにします。

実際にNDL-OPACでの雑誌記事索引の使い方をみてみましょう。



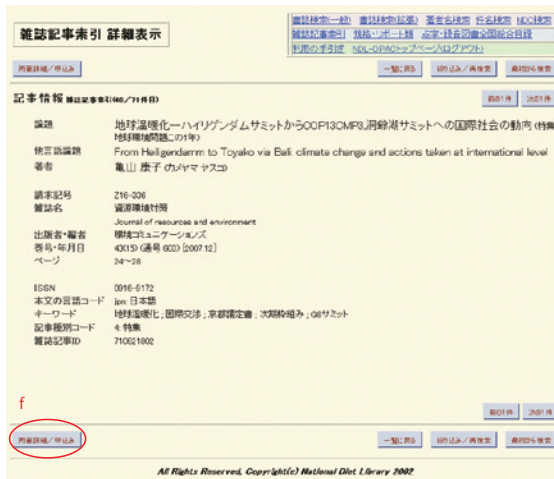
①検索ワードの入力

- a 「論題名」というボックスに「洞爺湖サミット」と入力し、「検索」ボタンをクリックします。  
\* 論題名は、タイトルのみ（ひらがな、カタカナ）、記事の本文に付与されているキーワードを検索できます。
- b 著者は記事ごとに3名まで記録。日本人名の場合はよみ（ひらがな、カタカナ）からでも検索できます。
- c 1975年から1995年までの記事には分類記号がついています。
- d 現在入力しているデータには、簡易な区分として、「伝記・年譜」、「判例研究」などの「記事種別コード」がついています。
- e 一覧で表示できる件数は200件までです。この上限を超えた分は表示されません。



②検索ワードを含む記事の一覧表示から目的の記事を選ぶ

「洞爺湖サミット」がタイトルに含まれる記事の一覧が検索結果として表示されます。この中の該当する記事をクリックします。



③ 該当記事の詳細表示

より詳しい記事の内容がわかります。  
f 該当雑誌の所蔵の確認 (所蔵詳細)

④ 閲覧・郵送複写 (登録利用者のみ) などのサービスの選択

利用者の登録をしないと、オンラインで複写を申し込むこともできません。  
(<http://www.ndl.go.jp/jp/information/guide.html#PersonalRegist>)

● 検索する際のご注意

- ・ 雑誌記事索引のデータは、記事自体あるいは目次を情報源とするシンプルなものです。自然語による検索のみ可能です。つまり雑誌本体にある情報をそのまま載せているので、関連語からの検索はできません。
- ・ 精度の高い検索結果を得るためには、検索条件で絞り込むことが重要になります。「記事種別コード」を使う、年代チェックボックスで雑誌が刊行された期間の範囲を絞る、該当雑誌の巻号を入れるといった工夫をお勧めします。
- ・ 雑誌記事索引のシステムの漢字コードはJIS83です。この範囲外の漢字等は、代わりに読みをカタカナで入力しています。また、西洋系の外国人は基本的にアルファベットで著者名を記録しています。ただし、カタカナのみで雑誌に記載されている場合は、その記事の著者名はカタカナになります (例 Peter Franklとピーター・フランクルなど)。このように、記事によって同じ著者でも表記が異なることもあるので、お探しの記事が見つからない場合は、他の表記でも検索してみてください。

● 雑誌記事索引の成り立ち

NDL-OPAC公開以前の四七年という長い期間、雑誌記事索引は冊子体で提供していました。ここで簡単に雑誌記事索引の歴史を振り返ってみましょう(表1)。

雑誌記事索引のそもそもの始まりは、昭和二三(一九四八)年に図書整理の指導・助言のため米国から派遣されたダウンズが作成した、報告書の勧告によるものでした。この勧告で言及されたことにより、冊子体として一九四九年二月に創刊され一九九五年まで刊行が続きました。冊子体の時代は、限定された学術雑誌を対象に分類をつけるなど丁寧なデータ作りをモットーとしてい

表1 雑索の提供方法の変遷

1949年	雑誌記事索引の刊行を開始(冊子体)
1950年	「自然科学編」・「人文科学編」に分離
1965年	「科学技術編」・「人文・社会編」に改題
1975年	冊子体のコンピュータ編集を開始
1979年	「医学・薬学編」の刊行を開始(～1984)
1984年	オンライン情報検索システム提供開始
1994年	CD-ROMによる提供を開始
1996年	冊子体の刊行を終了
2002年	NDL-OPACによる提供開始
2005年	CD-ROMによる提供を終了

ました。時代とともに雑誌の刊行量が増大し、それに伴う利用者の「もっと広く多数の雑誌を検索したい」というニーズに対応できなくなってきたことから、あり方を再検討し、一九九五年、分類をやめ対象誌を増大させるという方向へと軌道修正しました。冊子時代の対象誌は三、一〇〇誌でしたが、一九九六年には週刊誌等利用頻度の高い雑誌を加えて一気に五、五〇〇誌へと拡大。その後調査・研究に有用な雑誌や紀要類を加え、二〇〇〇年には九、〇〇〇誌となりました。二〇〇八年一月現在、一〇、一一五誌を対象としています(表2)。

雑誌記事索引のデータは外部にも提供していますので、国立情報学研究所のCINIIや日外アソシエーツのMAGAZINEPLUSなどからも利用することができます。また、国立国会図書館が提供するデジタルアーカイブポータル「PORTA」(<http://portandl.go.jp/portald/>)からも一部の記事が検索できます。

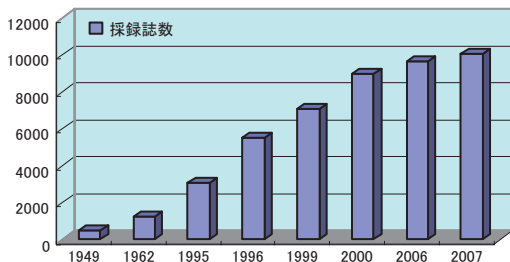


表2 採録誌数の変遷

②



①



記事・タイトルや著者の入力

① OCR (光学式文字読取装置)で雑誌の目次部分を読み取る。

② キーワードや著者の確認を行う。縦書きや横書き、カラー記事など、OCRでは歯の立たないことが多いので、人間でなければできない作業です。理由は下のコラムをご覧ください。

### ○コラム 情報源は目次？本文？

記事タイトルを入力する際、どこを情報源とするかは目録にとって重要な問題です。実際、目次と本文でタイトルが全く違う、なんてことが週刊誌などの情報誌だとざらにあるのです。本文のタイトルは著者が書き、目次は編集者が簡潔なタイトルで作るといった話を聞きます。「では本文から記録すればいいのでは？」と思われるでしょうか。ところが、本文は本文でタイトルをおしゃれに配置しているために、一体どこからどの順に読めばよいのかが全く分からない記事というものも多々あります。採録する人によって記録されるタイトルが異なるようでは目録にはなりません。そこで、現在では本文と目次でタイトルが比較的一致している「学術雑誌」は本文から、その他の判断の難しい雑誌は目次から入力、と場合分けて採録しています。



記事を見るとタイトルは縦横が混在したり、主タイトルが本文よりも小さかったり、目次は日本語なのに英語になっていたりとしています。

出典：左から  
『週刊ポスト』

40(6)1953, pp. 26-27,  
『宣伝会議』(734), p18,  
『航空ファン』57(2)  
(662), P.8



冊子の雑誌記事索引を元に遡及入力を行っている。

### ●採録誌・採録記事の基準

採録の対象となる雑誌を絞り込む基準として「雑誌記事索引採録誌選定基準」というものを設けています。この基準では、採録の対象とする雑誌を「学術雑誌」「専門誌」「一般総合誌(週刊誌など)」などととし、同時に採録にそぐわないものを除いています。

さらに、採録の対象となる雑誌からどのような記事を採録するかは「雑誌記事索引記事採録基準」で定めています。原則三ページ以上の分量がある記事を採録しているほか、内容についても言及しています(広告や学会の運営報告などお知らせに類する記事はとらない、など)。採録誌選定基準・記事採録基準はこちらをご覧ください。  
[http://sig.ndl.go.jp/data/sakun/sakun\\_select.html](http://sig.ndl.go.jp/data/sakun/sakun_select.html)。

新たに刊行された雑誌については、この基準にあっているかどうかを二か月に一回の割合で審査しています。その際、継続的に刊行され、納本されると見定められた雑誌が対象となるように気を配っています。「この雑誌も雑誌記事索引に載せて欲しい」というご要望もこの選定作業のときと一緒に検討し、結果をお知らせしています。

### ●雑誌記事索引の課題と取り組み

現在取り組んでいる事が二つあります。一つ目は「冊子体」時代のデータもNDL-OPACで検索できるように整備する「遡及入力作業」です。人文社会編一三三万件の

データは入力を終え、現在は科学技術編一八万件的作業を行っています。平成二〇年度中にはすべての作業を終える予定です。

二つ目として「入力ルールの見直し」があります。昨年から段階的に、それまで使われてきたルールの見直しを行い、利用の少ない「ワード検索」(タイトル中に含まれる自立語ごとに完全一致で検索できるという部分)の維持をやめ、代わりに他言語論題として英語のタイトルも採用することにしました。ルールはまだ外部に公開できる状態にありませんが、無駄を省きより多くの方のニーズに応えられるよう、鋭意努力を続けます。

このほか、今後の課題としては、採録誌を選定した時点の最新から採録が始まるためにそれ以前の刊行分のデータがないという問題、二ページ以下の記事への採録要望へどう応えるかという問題、ページ数が入っていない、記事が重複しているなどさらに整備が必要な遡及入力データの問題などが挙げられます。これらの問題については雑誌記事索引の次期の課題とし、取り組んでいく予定です。

現在は、残りの遡及作業を終えることを重点課題としています。一つずつ地道に問題に取り組みながら、皆様により速くより多くの情報をお届けするよう努力を続けてまいりますので、是非ご利用ください。

(書誌部逐次刊行物課)



## 書誌データの遡及入力の実施状況について

膨大な文献の中から適切な資料を探し出すための目録を、図書館はその歴史が始まって以来作り続けてきました。目録カードや冊子体から、コンピュータで検索できるOPACへ、目録も進化しています。紙媒体で維持されてきたこれまでの目録を入力し、データベース化する書誌データの遡及入力は、多くの図書館にとって大きな目標となりました。遡及入力によって、書誌データがデータベース化されれば、どこからでもインターネットで検索可能になり、存在があまり知られていなかった所蔵資料にも、アクセスの道が開けます。また、いろいろな資料の書誌データを同時に検索できることは、新しい知識の発見につながります。多種多様な資料を所蔵する国立国会図書館は、遡及入力をどのように進めてきたのか、その歩みと現在の状況を紹介します。

### 一 遡及入力の歩み

#### (1) 和図書データの遡及入力

— 昭和五四（一九七九年）～平成一一（一九九九年）

国立国会図書館はコンピュータによる目録の編さんを昭和四〇年代後半から開始し、昭和五六年には、新刊和図書の機械可読目録として磁気テープによるJAPAN/MARCの頒布を開始しました。

それと並行して、昭和五四年には最初の遡及入力事業に着手、まずは昭和四四年から昭和五一年までに収集対象とした和図書の目録データを入力しました。その後、順次対象を拡大し、平成一年に明治期以降全ての和図書約九〇万件の遡及入力を終了、冊子体の蔵書目録、JAPAN/MARC、JIBISC(CD-ROM)として頒布しました。入力作業は、カード目録や帝国図書館時代の冊子体目録等を基本に、目録が作成された当時には記録されなかった書名や著者のヨミ、ページ数といったデータを補いながら進められ、ほぼ二〇年をかけた長期間の事業となりました。

#### (2) OPAC提供、関西館に向けて

— 平成一一（一九九九年）～平成一四（二〇〇二年）

その間、一九九〇年代から図書館の目録はOPACが主流となっていました。また、インターネットの普及により、

インターネットを通じたアクセスが必須の条件となりました。さらに、平成一四年度の関西館開館、国際子ども図書館全面開館による業務展開に備え、資料が分散配置されてもその所在が明らかにできるよう、遡及入力もその範囲の拡大と迅速化が課題となりました。外国語の図書である洋図書については、書誌ユーティリティのデータと外部委託作業を活用し、平成一〇〜一二年度に約三八万件を入力しました。

和・洋図書の遡及入力データは、他の入力済み書誌データとともに、新規開発された電子図書館基盤システムに移行され、和図書については平成一四一年一〇月の関西館開館時、洋図書については平成一六年五月にNDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）で全件の検索が可能になりました。また、アジア諸言語資料の書誌データについても、同じく平成一四一年一〇月に公開したアジア言語OPACでの提供を開始しました。

### （3）「遡及計画二〇〇二」および「遡及計画二〇〇五」の策定と実施 ― 平成一四（二〇〇二）年以降

平成一四一年一二月に、当館では館内すべての資料所管部署の調査を行い、その結果、館内の未整理または未入力資料群は約一六〇種、データ総件数にして二〇〇万件余りと推定しました。図書、通常の逐次刊行物に対しては比較的

早く書誌データの整備が進められましたが、館内には、歴史のある貴重な資料、地図やレコードなど媒体が異なる資料、入力元のデータに不備がある資料などが、まだデータベース化されずに存在することが、改めて明らかになったのです。また、データ移行によって、整備が必要な書誌データも発生しました。これを受けて、平成一五年二月に「平成一五年度以降のデータ遡及計画について」（通称「遡及計画二〇〇二」）を策定しました。

「遡及計画二〇〇二」では、国内刊行資料であることや入力のための準備状況などを勘案し、資料群一五種、データ総件数約六〇万件を選定、平成一五年度から一七年度までの三年間で、遡及作業およびデータ整備の推進を図りました。遡及入力作業は、主として対象の資料群を所管する課が担当し、和古書、漢籍、地図資料等の遡及入力が、この計画によって進展しました。

その後も、引き続き計画的に遡及入力を進めるため、平成一七年三月に再度調査を行い、平成一八年度以降のデータ遡及計画について（通称「遡及計画二〇〇五」）を策定し、平成一八年度から二〇年度の予定で実施しています。

また、雑誌記事索引科学技術編のデータ遡及入力事業を平成一六年度から開始し、平成一七年度からNDL-OPACにデータを搭載しています。

## 二 「週及計画二〇〇二」および「週及計画二〇〇五」の 実施状況

これらの計画で、週及入力およびデータ整備が実施された資料群は一六ページの表のとおりです。

このうち、「週及計画二〇〇二」の計画期間内に入力を実施した資料の総数（件数・タイトル数）は、雑誌記事索引を除き、約四一万五千件でした。この計画のもとでかなりの規模の週及入力が達成でき、NDL-OPACまたはアジア言語OPACに書誌データを搭載しました。

また、「週及計画二〇〇五」では、継続して地図資料、国内博士論文の週及入力を行うほか、新たに録音資料（レコード等）、映像資料（VHS・レーザーディスク等）も対象とし、録音・映像資料については今年度すでに約四一万件をNDL-OPACに搭載しました。

こうして、国立国会図書館の書誌データの週及入力は、国内刊行の所蔵資料については、かなりの部分をカバーするところまで進展してきました。しかし、個人が所蔵していた特別コレクション、また、外国刊行のテクニカルリポートのように独自の体系で整理された資料群等については、未入力のものも残っています。

週及入力は、地味な作業ですが、地図資料や録音・映像資料といった資料にはそれぞれに特有のデータが必要であ

ること、また、目録を作成するためのルールである目録規則が時代によって変わっていることもあり、それほど簡単には進みません。また、入力した書誌データに対し、書誌的事項を補うことが必要な場合も多くあります。しかし、資料へのアクセスを保証するという図書館の原点に立ち、また、資料デジタル化等の新しい事業を実現するためにも、これからも週及入力およびデータ整備の進展をはかりたいと思います。

1. 書誌ユーティリティ。分担目録作業のもと形成された巨大な共同目録システム。代表的なものとしてアメリカのOCLC (Online Computer Library Center) がある。
2. 特別コレクションの中には、歴学関係資料の渡辺敏夫コレクション、時計関係資料の堀田両平コレクションなどがある。
3. テクニカルリポートとは科学技術関係資料を指す。その他に一九九三年以前受け入れの国際機関資料（パブリケーション）なども未入力資料群になっている。

（書誌部書誌調整課）

表 「遡及計画2002」および「2005」のおもな実施状況（平成20年1月末現在）

資料類別	資料群名	実施件数 (実施中のもの を含む)	実施年度	備考
和図書	国内官庁小冊子	37,873件	平成17年度	
	学習参考書	33,257件	平成15年度～ 18年度	
	NTT電話帳	14,262件	平成15年度	電電公社分を含む
	民間刊行小冊子	9,334件	平成17年度	昭和62年～平成7年受入分
	戦前期和図書	約7,400件	平成19年度 (実施中)	未入力分
和古書	和古書 (江戸期以前)	35,107件	平成15年度	
漢籍	漢籍（清朝以前）	11,969件	平成16年度～ 17年度	
非図書資料	地図資料	約110,000件	平成16年度～ (継続実施中)	
	録音資料・映像資料	415,055件	平成19年度	音楽映像資料データベースからデータ移行
	電子資料・録音資料・映像資料	約17,000件	平成19年度～ (実施中)	上記以外のもの
博士論文	国内博士論文	約88,000件	平成17年度～ (継続実施中)	昭和58年以前受入分 件数は入力済の分
雑誌・新聞	和雑誌・新聞	約3,000件	平成15年度～ 17年度	
アジア資料	中国語図書	約130,000件	平成15年度～ 18年度	
	アジア諸言語図書	約6,000件	平成15年度～ (継続実施中)	モンゴル語、インドネシア語、マレーシア語、ベトナム語、ヒンディー語、サンスクリット語、ペルシア語、アラビア語、タイ語
雑誌記事索引	雑誌記事索引 科学技術編	860,744件	平成17年度～	件数は平成19年度までの NDL-OPAC搭載数

## 最近NDL-OPACで検索可能となった資料群の紹介

当館では、過去に受け入れた資料の書誌データを計画に基づき遡及して入力しています。現在、入力作業をしている資料群は右の表のとおりです。ここでは、最近入力した戦前期和図書の中から特徴ある資料をいくつかご紹介します。

最初にご紹介するのは、教育関係の資料です。当館の前身である旧帝国図書館では様々な資料を所蔵しており、教科書、指導書、大学講義録といった教育関係の資料群もありました。早稲田大学、慶応義塾大学、明治大学といった古くからある大学をはじめとする、明治・大正期の大学講義録のほか、東京帝国大学農科大学実科（現東京大学農学部）、東京外国語学校（現東京外国語大学）、陸軍士官候補生といった各種の官立学校の入試問題を掲載した『諸官立学校入学試験問題答案詳解 大正4年度』などもあります。

次にご紹介するのは、風俗本や社会主義関係の資料です。旧帝国図書館では閲覧禁止になっていた資料も含まれています。現在では考えられないことかもしれませんが、江戸川乱歩の『乱歩傑作選集』の第1巻から第11巻、モーパッサンの『女の戯れ』も風俗本として閲覧禁止になっていました。この『女の戯れ』の原題は“Notre Coeur”（日本語訳は「我らの心」）です。当館には、閲覧禁止となった『女の戯れ』と訳された単行本1冊のほか、『我等の心』『吾等の心』などと訳されたものが数点あります。



入力元のデータである原簿、『女の戯れ』に閲覧禁止を示す「禁閲」の印がある。

このように、カードや冊子体目録でも探し出せなかった過去の貴重な資料が、書誌データが整備されたことによりNDL-OPACで新たに利用できるようになりました。

（資料提供部図書課）

たとえば、これらの資料が新たに検索できるようになりました。



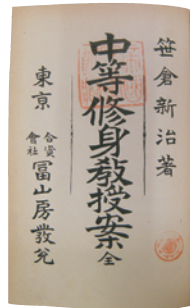
『女の戯れ』モオパッサン著  
新楽園 1924 333p  
標題紙部分



『我等の心 新訳』  
モオパッサン著 改造社  
昭和9 319p  
表紙部分



『学問のすすめ』  
福沢諭吉、小幡篤次郎著  
福沢諭吉 明治5 12丁  
冒頭部分



『中等修身教授案』  
笹倉新治著 富山房  
1902 標題紙部分

## ユニコードとセマンティックウェブの基礎知識―館内講演会から

図書館は、いろいろな情報を作り出しています。資料を検索するための書誌データから、インターネット情報のメタデータ、電子図書館コンテンツ、テーマを調べるために役立つレファレンス情報へと、範囲は広がるばかりです。長い歴史をもち、また情報サービスの最前線にある図書館の情報を、もつと国際的に、特にインターネットで、さまざまなデータといっしょに、そして便利に利用してもらうにはどうすればよいのか？

「UCSとUnicode 文字と文字コード管理」  
宮澤 彰氏（国立情報学研究所情報社会相関研究系教授）

\* 現在、国立国会図書館のNDL-OPACには、中国の漢字（簡体字）、韓国のハンゲルなど表示できない文字があります。また、多くの言語の資料が日本語と一緒に検索できません。多言語への対応を目指して、多言語対応の文字コードであるユニコード（Unicode）の成立ちと特徴、システム化にあたっての管理方法、問題点等についてお話しいただきました。

それを考える基礎講座として、平成二〇年一月に、「図書館の生み出す情報の流通・活用に向けて」を総合テーマとして、二回の館内講演会を開きました。

国立情報学研究所の宮澤彰氏から、多言語対応の文字コードであるユニコードについて、そして、ゼノンリミテッドパートナーズ代表の神崎正英氏から、データを結びつけるウェブ、セマンティックウェブと書誌データについてお話しいただきました。

### ユニコードの成立ち

コンピュータのデータは、すべて数値で成り立っています。コンピュータで文字を表すために割り当てられる数値が文字コードです。世界には、多くの文字コードの集合（文字コードセット）が存在し、日本ではいわゆるJISコードが広く使われ、韓国ではKSコード、中国ではGBコードなど、各国でそれぞれの標準コードが使われています。そのため、これらを使用して開発された情報システムは、他の言語の文字が使えなかったり、使うのが不便だったりします。

一九八〇年代中頃から、世界中の文字を包含した標準的な文字コードセットを作ろうとの動きがありました。一つ

例：左から中国（繁体字、簡体字）、日本、韓国、ベトナムで使われている「紙」

はISO（国際標準化機構）が制定しようとしていたUCS（Universal Multi-octet Character Code）\*、もう一つが民間で考えられたユニコード（Unicode）です。両者の考え方にはかなり違いがありました。一九九〇年代に入つて二つを一体化する動きがあり、UCSはユニコードと基本的に同じものになりました。

### ユニコードの特徴

ユニコードの特徴として、日本、中国、韓国、台湾の漢字を、同じ字とみなせば、形に違いがあっても一つのコードに統合するとの原則があります。そのためには何と何を同じとするかの統合（Unification）のルールが必要で、一九九一年に二万九〇二字からなる最初の統合漢字レパートリが完成しました。しかし、同時に、数多くの字体を持つ文字の統合には、確たる規範があるわけではなく、誰もが認めるルール作りは困難だったといえます。

### 文字の管理

この問題は、多くの文字を持つユニコードを実際に使う場合にも当てはまります。たとえば、書誌データの中で、「高」と「高」という文字を使い分けたほうがよいのか、同じ文字として扱ったほうがよいのか？ 混乱しないように、情報システムやシステムを使用する機関で、文字の使用方法を取り決め、文字セット管理を行う必要があります。ユニコードを採用した国立情報学研究所のNACSIS

ICATでは、次のようなルールを運用しています。

\*正規化：文字コードが異なっても、一つの表現で代表させ、データベースに格納する。たとえば、半角ABCと全角ABCは、データベース中では同じコードで表現し、表示も同じにする。「高」は「高」として扱うなど。

\*不使用文字：使わない文字を決める。たとえば他の文字コードにない記号、(株)、(有)、(社)、X、(心)、(目)、(星)、(は)使わないなど。

同時に、常用漢字、旧漢字、繁体字、簡体字等の漢字の字体の違いを気にせず検索できるように、異体字を関係づけた「統合漢字インデックス」を整備しています。

### 多言語対応への道

ユニコードの採用は、多言語対応への現実的な道ですが、システムの対応、データの移行、ルールの確立等が今後必要です。また、国際的な標準化を意識し、そのための活動に加わっていくことも国立国会図書館の課題といえます。

### 「リンクする書誌データ」

神崎正英氏（ゼノンリミテッドパートナーズ代表）

\* 次世代ウェブとして注目されてきたセマンティックウェブ（Semantic Web）。インターネット上のデータがコンピュータによってよりよく解釈され、

自動的な処理が可能になるように、メタデータのモデル、コンピュータ用の言語などが開発されています。その考え方や、図書館のさまざまなデータをどのように扱い、活用することができるかについてお話しいただきました。

セマンティックウェブとは？

インターネットはコンピュータを結ぶネットワークワーク、ウェブ (World Wide Web) はインターネット上で文書を結びつけるリンクする仕組みです。そして次には、文書を越えてデータ、概念、人、物などさまざまなリソースを結びつけ、共有し、活用しようとの発想から、セマンティックウェブが提唱されました。ウェブの開発者でセマンティックウェブの提唱者であるバーナーズ・リー氏は、そのリンクの広がりをも、「巨大なグローバル・グラフ (グローバルつながり)」と表現しています。

基本となる仕組みには以下があります。

\* RDF (Resource Description Framework)

リソースの関係をデータとして記述するモデルが RDF です。主語、述語、目的語の三つの単純な組み合わせによって、複雑なデータも表現します。また、記述に用いる語彙を定義します。

\* URI (Uniform Resource Identifier)

リソースを識別するための仕組みが URI で



グローバルグラフ

す。リソースに URI で名前をつけることによって、コンピュータが正しくそのリソースを識別し、また、領域や組織の境界を越えてリンクすることもできます。

これらの仕組みを使って、情報処理のための言語、さまざまなメタデータが設計されています。国際的なメタデータ基準であるダブリンコア (Dublin Core) も、二〇〇七年に新しいモデルである「ダブリンコア抽象モデル」を設計することによって、セマンティックウェブの枠組みに対応しています。

図書館のデータをつなぐ

それでは図書館の作成しているデータはどうでしょうか。図書館の書誌データは、MARC (機械可読目録) や検索目録である OPAC によって提供され、データの交換、資料の検索といった機能が中心になってきたといえます。書誌データ、またそれとともに作成・維持されてきた人名などの典拠、件名標目、分類など図書館の実績のあるデータが、ウェブ上のさまざまなデータ、たとえば書評、オンライン辞書などもリンクされることになれば、そのつながりは広がっていきます。講演では、図書館のデータを RDF、URI を使用して表現するための実例をいくつかご紹介いただくことができました。

(講演の資料は、神崎講師のウェブサイトに公開されています。  
<http://www.kanzaki.com/works/2008/pub/0117ndlhtml>)

(書誌部書誌調整課)



NDL-OPACで国内刊行の雑誌や新聞など逐次刊行物の検索が改善されたのにお気づきですか？

書誌検索の著者・编者欄で「東京メトロ」と検索してみてください。検索結果をみると、検索語の「東京メトロ」だけでなく正式名称の「東京地下鉄株式会社」に該当する書誌情報を持つ資料もヒットしていることがお分かりだと思えます。

このほか、著者・编者からの検索では、刊行中に编者编者の表示がない場合は出版者（が変更になった場合、変更前、変更後どちらの编者でも検索できます。例えば编者が「福武書店」から「ベネッセコーポレーション」に変更された場合、「ベネッセコーポレーション」と「福武書店」のどちらで検索してもヒットします。

このような柔軟な検索が可能になったのは、平成一七年三月から順次始めている書誌データと编者などの名称のデータベース（団体名典拠データベース）のリンク作業や、そのデータベースの内容の充実、検索できる編

者の範囲を拡大したためです。

データベースに登録する编者情報は、資料そのものや、ホームページなどから得ています。正式名称や通称、英語名など、编者団体の名称に関する情報はもちろんのこと、同名異団体が存在するときにどの団体を指しているかを識別するための情報（法人格、設立年など）もあわせて記録しています。探した情報の中から、利用者にとって便利で汎用性のある情報を記録するように心がけています。



検索できる编者を創刊号以降のすべての编者に拡大したため、過去の编者を調べに書庫に向かうこともあります。一冊一冊確認していく作業はときに

時間を要しますが、創刊号以降のバックナンバーを保存している当館だからこそ、编者の調査から書誌情報の追加までがスムーズに行えます。地道な作業ですが、NDL-OPACがどこかで誰かの検索に役立つように、引き続きデータ整備を進めていきます。

（書誌部逐次刊行物課整理係 モコモコ）

## 常設展示のお知らせ

第一五三回

### 「国技・相撲」

— 近代以降の事件と名力士 —

平成二〇年四月一七日（木）から

六月一七日（火）まで

於 本館二階第一閲覧室前（東京本館）

日本の国技と呼ばれる相撲。その歴史は長く、古くは『日本書紀』にも記述されています。しかし、「国技」と呼ばれ、スポーツとして扱われるようになったのは、明治以降のことです。西欧化の進む中、「蛮風」とされ存亡の危機にさらされた相撲は、制度の改善や国技館の設立等を経て近代的なスポーツとしての形を整えていきました。

今回の展示では、近現代の相撲の歩みを、「事件」と「ひと」の二つの観点から取り上げます。相撲の組織や制度の近代化を推し進めるきっかけとなった力士の処遇をめぐる事件や、マスメディアの発展によって誕生したスター力士たちの活躍を通して、今や日本を代表するスポーツの一つとなった相撲の歴史をご覧ください。

## 第五回韓国国会図書館との業務交流

### 一 はじめに

二〇〇七年一月、当館に、韓国国会図書館の代表団を迎え、第五回の業務交流を実施しました。代表団は、イ・ジンギョン立法情報室立法データベース課課長補佐とナ・ヘスク立法情報室外国資料課日本語情報専門官の二名でした。

日韓両国の国会図書館にとって、国会サービスの充実は喫緊の課題です。韓国では、議員立法の急増を背景に、二〇〇七年一月に、シンクタンクの機能を持つ立法補佐機関「立法調査処」が活動を開始しました。このため、韓国国会図書館は、立法調査処との重複を避けつつ、豊富な資料と外国語能力を生かした、図書館ならではのサービスを模索しています。

一方、我が国では、国会事務局等の改革論議の中で、国会の調査を担う組織として調査部門の強化が求められています。調査及び立法考査局は、二〇〇五年に策定した「国会サービスの指針」のもと、「立法府のブレイク」として、また「議員のための情報センター」として、十分な機能を発揮すべく、サービスの改善に努めています。

今回の業務交流では、電子情報と海外立法情報提供を

テーマとしました。お互いの経験からサービス改善のヒントを得たいとの気持ちから、以前にも増して報告者・参加者の熱意が感じられる交流となりました。以下では、日韓両代表が報告を行った業務交流Ⅰ・Ⅱを中心に紹介します。

### 二 業務交流Ⅰ 電子情報の収集及び議会への提供

「事実情報中心の立法情報サービス」「政策沿革情報」と「立法情報室 e-INFO POST」

イ・ジンギョン課長補佐



（立法情報室立法データベース課）  
韓国の国会議員が求める「立法情報」のうち、約半数は、「事実情報」が占めている。これを、多忙な議員にも活用しやすい形で電子化するには、体系化と速報性が重要である。

体系化に力点を置いて提供しているのが、「政策沿革情報」である。これは、主要な国政課題について、政策の立案、決定、執行、評価の各段階で作られた客観的な資料を整理し、解説を付け、まとめたものである。国会会議録、予算

## 立法情報室 e-INFO POST



「立法情報室 e-INFO POST」である。これは、国会議員をはじめとする国会関係者向けの週二回のメール配信サービスであり、主要な国政課題について関連資料をタイムリーに提供することを目的としている。各号は、①国政課題(二件) ②外国法翻訳情報(一〜二件) ③政府の政策資料(四〜五件) ④書籍の紹介(二〜三冊)で構成されている。

## 「デジタル情報の収集と議会への提供」

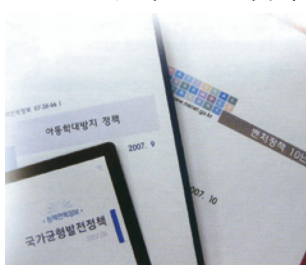
南亮一課長補佐

(調査及び立法考査局国会レファレンス課)

当館のデジタル情報の収集は、パッケージ系電子出版物

資料、各界の政策提言、新聞記事等を盛り込んでいる。関連政府機関のホームページやインターネット上に原文のある資料へのリンクも付している。ひと目で、求める資料のありかがわかる。「政策沿革情報」は、委員会審議の基礎資料として重宝されている。

一方、速報性を重視したものが



政策沿革情報

の納入を目的とした二〇〇〇年の国立国会図書館法の改正から始まる。以後、当館は、電子ジャーナルやオンラインデータベースへと収集範囲を広げ、二〇〇六年からは、インターネット情報の選択的蓄積事業(WARP)も本格実施している。

あわせて、当館蔵書、国会会議録、調査及び立法考査局の各種刊行物等のデジタル化や、NDL・LOPAC、日本法令索引といった二次情報のデータベース化にも取り組んでいる。

国会議員への電子情報システムとして、調査及び立法考査局は、国会向けホームページ「調査の窓」を開設し、これらのデジタル情報を、より使いやすい形で提供することに努めている。現在、国会議員への要望調査の結果をふまえて、システム改修を行っており、新年度からは、議員会館内の各事務所からのオンラインデータベースへのアクセスが可能となり、データベースの横断検索機能もさらに充実する。

報告後の質疑では、作成コンテンツの中立性・客観性の確保や、コンテンツ公開の範囲等の問題が取り上げられた。韓国側の「政策沿革情報」は、多岐にわたる国政課題を、司書六名でカバーしているとのことで、実際の作成プロセスや業務分担に日本側の関心が集まった。

### 三 業務交流Ⅱ 海外立法情報提供の議会への提供

「韓国国会外国語資料支援組織の沿革と国会へのサービスに関して」

ナ・ヘスク日本語情報専門官（立法情報室外国資料課）



韓国国会図書館では、一九七三年の国会図書館海外資料局の開設以降、外国語資料を活用した立法活動の支援業務を行っている。現在は、立法情報室の専門官一〇名がこの仕事を担当している。その業務は、①議員の求めに応じて、外国の法律情報を調査・翻訳すること、②予め国政審議に役立つと思われる外国の法律情報を翻訳して、資料集等の形で議員に提供することである。

近年は、議員立法が増加していることから、国会議員からの調査依頼も急増しており、本年度一〇月までの依頼数は七六一件で、すでに前年度の依頼数を上回っている。各国語の専門官は、これらに迅速に回答するとともに、法律情報等の発信にも努めている。主要国の法律制定・改正情報の概要を翻訳し、原文とともに掲載する「最



最新外国法律便り

新外国法律便り」や、外国の新聞紙上に掲載された韓国関連記事、政治・経済分野の主要記事を翻訳した「一日外国新聞情報」は、ホームページ等を通じて議員に提供され、好評を得ている。



一日外国新聞情報

「国会への海外立法情報提供―海外立法情報調査室・課の業務を中心として―」

岡久慶主査（海外立法情報課）

調査及び立法考査局に寄せられる調査依頼のうち、約三割は外国情報に関するものである。これらの調査依頼に対応して、各主題に対応する調査室・課は、法令制定の背景事情、日本との制度比較等も含めて調査し、回答している。一方、海外立法情報調査室・課は、主題を問わず、広く外国の立法情報を収集し、それらを法令本文の翻訳とあわせて紹介し、国会議員のニーズに込えている。

法令翻訳・解説記事のうちおもなものは、調査及び立法考査局の季刊誌『外国の立法』で紹介するほか、その他の短信記事とともに、国会向けホームページにも掲載している。調査テーマの選定にあたっては、外国の立法動向への目配りだけでなく、我が国の国政審議に役立つかどうかの視点も欠かせない。近年、『外国の立法』では、テロ対策、外国人問題等の特集を組み、各国の制度・動向を比較しや

すくしている。

なお、調査及び立法考査局には、調査員の自主参加による外国法研究会があり、外国法翻訳について情報交換と修練の場となっている。

両報告を受け、翻訳原稿の査読体制、日本情報として取り上げたトピック等について質問がなされた。韓国側には、各国語の専門官が外国法翻訳上の疑問等を相談できる場がないことから、外国法研究会を参考にしたいとの発言もあった。

#### 四 所感

多忙な国会議員から寄せられる様々な国政課題に関する情報提供要求に、迅速かつ的確に応えることは、容易なことではありません。日韓両国の報告では、膨大かつ多様な情報を、国会議員のニーズに合わせて整理・体系化し、また、検索手段を整備することによって、タイムリーに提供する様々な工夫が示されました。報告者と会場のやり取りからは、互いの業務改善の参考となる知見が数多く得られました。さらに、豊富な資料群と数多くの外国語を扱ってきた経験を生かし、国会図書館ならではの国会サービスを展開したいとの気概も感じられました。

二回の報告会の後、イ課長補佐は議会官庁資料課、ナ専

門官は海外立法情報課で職員と懇談し、調査・資料検索の手法、調査成果の発信方法等について意見交換を行いました。朝鮮総督府時代の官報のインターネット上での検索方法について知恵を絞ったり、外国法翻訳の苦労話を披露したりという場合は、両国スタッフの距離を近づけました。

今回の業務交流は、国情こそ違いますが、隣国にも同じような問題意識を持ち、国会サービスに奮闘しているスタッフがいることを、心強く感じる機会となりました。また、短期間の交流でしたが、帰国後も、お互いに近況を伝え合い、情報交換をするという人間関係を築くこともできました。

五回を数えた韓国国会図書館との業務交流は、両館の国会サービスの向上に役立っています。次回は韓国国会図書館において開催される予定です。

(調査及び立法考査局調査企画課)

#### 業務交流のおもな日程

- |     |   |
|-----|---|
| 11日 | 館長表敬、館内見学<br>調査及び立法考査局の業務説明             |
| 12日 | 業務交流Ⅰ<br>国会議事堂・国会分館見学<br>参議院調査室の業務説明    |
| 13日 | 業務交流Ⅱ<br>調査及び立法考査局職員との懇談<br>資料保存課見学     |
| 14日 | 今後の業務交流に関する協議<br>早稲田大学中央図書館、<br>東京都議会見学 |
| 15日 | 国際子ども図書館見学                              |



## 平成二〇年度国立国会図書館職員採用試験の実施について

平成二〇年度は国立国会図書館職員採用Ⅰ種、Ⅱ種、Ⅲ種の各試験が行われます。

### 〔組織と業務〕

初めに、国立国会図書館の組織と業務について簡単に説明いたします。

国立国会図書館は、昭和二三（一九四八）年、国立国会図書館法に基づいて設立され、立法府である国会に属しています。東京本館（東京都千代田区永田町）、関西館（京都府相楽郡精華町）、国際子ども図書館（東京都台東区上野公園）の三施設が一体となつて業務運営を行っています。現在の職員定数は九二三名です。職員の身分は、国会職員（特別職国家公務員）です。

当館の業務内容は大きく三つに分けられます。

第一に、調査業務です。立法府に属する「国会図書館」として、国会議員の立法活動を補佐します。調査及び立法考査局が中心となり、国会議員その他国会関係者に対して、法案等の分析・評価、国政審議に係る政治、経済、社会各般の調査、資料提供等のサービスを行います。

第二に、司書業務です。日本で唯一の「国立図書館」と

して、内外の膨大な資料を収集、整理、保存し、後世に伝える責任を負っています。収集した資料をもとに目録、書誌、索引を作成し公開するとともに、データベースを構築し、行政・司法の各部門および一般公衆に対する閲覧、資料提供、レファレンス等の幅広い図書館サービスを行います。さらに内外の図書館との協力活動を行います。司書業務は、調査及び立法考査局の一部、収集部、書誌部、資料提供部、主題情報部、関西館（総務課を除く）、国際子ども図書館、支部東洋文庫によって行われています。

第三に、一般事務です。調査業務や司書業務を円滑に行わせるための業務です。主に総務部、関西館総務課によって行われます。

次に施設ごとにご紹介します。

東京本館は、国会議事堂の隣に位置しています。国立国会図書館全体の統括、国内外の図書館との連携協力の企画立案などを行い、国会サービス、行政・司法各機関へのサービス、専門情報サービスの拠点となっています。また、納本制度等による資料の収集、全国書誌（我が国の出版物の記録）の作成を行い、資料の利用提供を行っています。

関西文化学術研究都市に位置する関西館は、アジア情報

の提供、来館およびインターネットを通じた文献提供サービス、電子図書館サービス、図書館協力等、情報化社会の進展の中でより高度な図書館サービスを進めています。

国際子ども図書館は、内外の児童書および関連資料を広範に収集し、電子図書館機能を活用して児童書の情報提供を行うナショナルセンターとして、子どもの読書環境および情報提供環境の向上のため、内外の図書館および研究者への支援と子どもへのサービスを行っています。

#### 〔平成一九年度採用試験からのおもな変更点〕

平成二〇年度の職員採用試験での、おもな変更点をお知らせします。

##### （一）Ⅰ種特例制度の新設

Ⅰ種試験に特例制度を設けました。特例制度とは、Ⅰ種試験不合格となった場合に、Ⅱ種試験の受験者としての取扱いを受けることができる制度です。Ⅰ種試験の受験申込みの際に「特例」を希望し、Ⅰ種試験の各試験種目を有効に受験すると（欠席または棄権した場合にはこの特例は適用されません）、Ⅰ種試験の第一次試験において不合格となった場合にはⅡ種試験の第一次試験の、Ⅰ種試験の第二次試験において不合格となった場合にはⅡ種試験の第二次試験の、Ⅰ種試験の第三次試験において不合格になった場合にはⅡ種試験の第三次試験の、それぞれ有効な受験者として扱われ、改めてⅡ種試験受験者としての合否判定がなされることとなります。

なお、特例の希望の有無が合否に影響することはありませんし、採用時や採用後に有利または不利に扱われることもありません。

##### （二）Ⅰ種Ⅱ種試験の第一次試験日程

Ⅰ種およびⅡ種試験の第一次試験の試験日を、二週間程度繰り下げます。最終合格者発表の時期は、平成一九年度とほぼ変わりません。

試験の日程は、平成二〇年度国立国会図書館職員採用試験要領（概略）（二八ページ）をご覧ください。

##### （三）Ⅲ種（技術）試験

Ⅲ種（技術）試験は実施しません。

##### 〔よくある質問〕

最後に、職員採用試験に関して毎年多く寄せられる質問についてお答えいたします。

新規職員の採用者数は、基本的に欠員補充の形を取るため毎年異なります。ちなみに、平成二〇年四月の採用予定者数は、Ⅰ種一名、Ⅱ種二名、Ⅲ種一名、Ⅲ種（技術）二名です。

採用後は、国立国会図書館職員として一つの施設・業務にとどまらず、施設や部局の間を異動し、広く様々な業務を経験していくこととなります。

なお、試験案内および受験申込書の請求ならびに試験に関する問い合わせ先は、次のとおりです。



〒一〇〇・八九二四

東京都千代田区永田町一・一〇・一

国立国会図書館総務部人事課任用係

電話 〇三(三五〇六)三三二五(直通)

〇三(三五八一)二三三二一(代表) 内線 二〇四二〇

電子メール [saiyo@ndl.go.jp](mailto:saiyo@ndl.go.jp)

## 平成二〇年度国立国会図書館職員採用試験要領(概略)

### 一 試験の種類

国立国会図書館職員採用Ⅰ種試験、Ⅱ種試験およびⅢ種試験

### 二 職務内容

調査業務、司書業務、一般事務等の館務

### 三 採用予定人数

Ⅰ種 若干名

Ⅱ種 若干名

Ⅲ種 若干名

### 四 官署および勤務地

東京 国立国会図書館東京本館

(東京都千代田区永田町一・一〇・一)

国立国会図書館国際子ども図書館

(東京都台東区上野公園二二・四九)

京都 国立国会図書館関西館

(京都府相楽郡精華町精華台八・一・三)

いずれの官署の職員も、国立国会図書館職員として、この採用試験により採用します。三官署が国立国会図書館として一体となった業務・サービスを行うため、官署間の異動、東京と京都の間の転勤があります。

### 五 受験資格

1 Ⅰ種試験 ア 昭和五四年四月二日から昭和六二年四月一日までに生まれた者 イ 昭和六二年四月二日以降に生まれた者で次に掲げるもの a 学校教育法による大学を卒業した者または平成二一年三月までに卒業する見込みの者 b 館長が a に掲げる者と同等の資格があると認める者

2 Ⅱ種試験 ア 昭和五四年四月二日から昭和六二年四月一日までに生まれた者 イ 昭和六二年四月二日以降に生まれた者で次に掲げるもの a 学校教育法による大学を卒業した者または平成二一年三月までに卒業する見込みの者 b 学校教育法による短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者または平成二一年三月までに卒業する見込みの者 c 館長が a または b に掲げる者と同等の資格があると認める者

3 Ⅲ種試験 昭和六〇年四月二日から平成三年四月一日までに生まれた者で次に掲げるもの ア 最終学歴が学校教育法に



よる高等学校、中等教育学校、短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者または平成二十二年三月までに卒業する見込みの者（ただし、大学卒業以上の学歴を有する者および平成二十二年三月までに大学を卒業する見込みの者を除く）イ館長がアに掲げる者と同等の資格があると認める者

ただし、右記1～3とも、日本の国籍を有しない者および国会職員法第二条の規定により国会職員となることができなない者は、受験できません。

## 六 試験の期日

### 1 I種試験およびII種試験

(一) 第一次試験 五月三二日(土)(I種、II種とも共通)

(二) 第二次試験

○六月二八日(土)(I種、II種とも共通)

○七月二日(水)から七月四日(金)までのうち指定する日(I種のみ)

○七月三日(木)、七月四日(金)、七月七日(月)から七月二日(金)までのうち指定する日(II種のみ)

(三) 第三次試験

○七月二九日(火)(I種のみ)

○七月三〇日(水)、七月三一日(木)のうち指定する日(II種のみ)

### 2 III種試験

(一) 第一次試験 九月二七日(土)

(二) 第二次試験 一〇月二七日(月)

## 七 最終合格者発表

1 I種試験およびII種試験

八月六日(水)

2 III種試験

一〇月三一日(金)

## 八 試験案内および受験申込書の配布

試験案内および受験申込書は、国立国会図書館東京本館および国立国会図書館関西館で配布します。郵送での請求は東京本館でのみ受け付けます。封筒の表に希望する試験の種類(I種・II種請求)または「III種請求」を朱書し、返信用封筒(角型三二号)を同封してください。返信用封筒には、あて先および郵便番号を記入し、郵便切手(一四〇円)を貼ってください。

## 九 受験申込みの受付期間

1 I種試験およびII種試験

四月七日(月)から四月二四日(木)(消印有効)まで

2 III種試験

八月二五日(月)から九月五日(金)(消印有効)まで

採用情報に関する詳細は当館ホームページ

(<http://www.ndl.go.jp/>)の「採用情報」を参照してください。

## 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さないう国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

### NHK日曜美術館30年展 名品と映像

でたどる、とっておきの美術案内  
NHK、NHKプロモーション編・刊（〒150-0047渋谷区神山町五番五号）二〇〇六  
三〇三頁 二九七×二二二  
(K16-H929)

「そして、素晴らしい言葉を得たとき、作品はさらなる価値を得て新たに輝きを増すのでした。」（本書より）

「日曜美術館」は、一九七六年四月にテレビ放送を開始した美術番組である。「新日曜美術館」とタイトルを変えて現在に至るまで、放送回数は一六〇〇回を超える。その魅力は、美術作品について単に解説するだけではなく、毎回様々なゲストが登場し、作品や作家に対する想いや独自の解釈を、自身の言葉で語ると

ころにある。画面のこちら側で、私たちは作品の鑑賞を楽しみ、ゲストの言葉を楽しみ、そしてまた、その言葉で語られた作品を楽しむ。この番組の放送開始三〇周年を記念し、過去の放送で取り上げられた作品と、ゲストが語る様子や作家の制作風景などを収めた映像とを併せて紹介する展覧会が開催された。本書はその展覧会の図録である。通常、図録の主役は作品そのものだが、本書は番組の魅力そのままに、作品を語る言葉の力を強く感じる内容となっており、読みごたえがある。

第一章「夢の美術案内―著名な文化人が語る珠玉の美術案内」では、例えば、今東光が関根正二を、武満徹がルドンを、池波正太郎がルノワールを語る。そして、その言葉の力によって新たな感慨と輝きを伴い姿を現した作品の世界へと、私たちが案内してくれる。手塚



治虫が、擬人化された動物達が飛び跳ねる「鳥獣戯画」の描写手法について、現代漫画と比較しつつ、「何百年か前にもう全部やられてしまったという打撃を受けたんです。」と語れば、気炎をあげる蛙の口から吐き出される煙が、漫画の吹き出しのようにも見えてくるのである。

第二章「作家が作家を語る―交友関係や師弟関係のある作家が語る美術案内」では、作家同士ならではの視点による言葉が新鮮である。お互いに国際的な版画家でありながら、池田満寿夫が棟方志功について「志功自身が神様なんですよ。」と語るのも、同じ高みを共有すればこそかと興味深い。

また、巻末に収められている番組司会者や制作者による座談会からは、放送の舞台裏をかいま見ることができる。何より、「本来、絵は見るものではないが、あえて、言葉で語っていたらどうよう挑戦してきた」という、三〇年ものあいだ番組を支えてきた制作者側の熱意が胸に響く。彼らの言葉もまた、作品を別の角度から照らし出しているようである。

本書では、放送でも展示でもない図録という形態を生かし、作品とともに語られる言葉をつくりと楽しみたい。そしていつか、それぞれの作品と対面する日を心待ちにしたい。

（佐藤 菜緒恵）

## 福岡ミステリー案内 赤煉瓦事件簿

福岡市文学館企画展 福岡市総合図書館

館文学・文書課編・刊（〒814001福岡市早良区百道浜三丁目）二〇〇六年十一月二

一〇〇頁 A4 (KG381-H166)

福岡市文学館が主催した同名の展覧会の図録である。福岡市ゆかりのミステリー小説や作家の紹介、福岡出身の人気作家乙へのインタビュー、小説で扱われた実在の事件など多彩な内容に加え、巻末の関連作家一覧と著書年譜には数百冊ものデータが掲載されている。

中央警察署管内で起きた事件、中洲で起きた事件、犯人が地下鉄を使った事件、博多港を使った事件、ラーメンが呼んだ事件、梅が枝餅によって展開が変わった事件……。これらを、警察管区別、作家別、「経済」や「観光」といったテーマ別などで紹介している。よくもこれだけ集めたものである。もちろん、タイトルだけで福岡とわかる小説は一部であり、福岡ゆかりの作家の作品などを手がかりとして丹念に読み込んでいったのだろう。取り上げている作品については、福岡に関する場面だけではなく、あらずじや作品が書かれた背景なども説明されており、福岡に縁のないミステリーファンにも楽しめる構成となっている。

ある土地にまつわる文学作品や文学者を紹介した本はそれほど珍しくはない。試みに、当館のOPACで件名に「(任意の地名) 文学」と入力して検索してもらいたい。かなりの本が出てくるはずである。

しかしこの本は、なにして「ミステリー」である。県や市が主催する文学に関する展覧会というと、純文学であるとか古い時代の大衆文学であるとか、評価の定まったものが中心で、幅広い層の興味関心をひくのは難しくなりがちであった。その点、読者層の広いミステリーに徹底的にこだわったので、多くの人が気楽に楽しめたのではないか。

もちろん、ミステリーを取り上げた理由は、「人気がある」だけではないだろう。ミステリーというものは、他のジャンルの小説に比べて、現実性を持たせるために描写が具体的に

になる。地名や電車名、ときには実在の建物なども使い、土地の人々の人間模様が描かれる。そのリアリティこそがミステリーの生命線であるといつてもよい。展覧会の意図が「福岡にもつと興味を持ってもらいたい」ということならば、これほどふさわしいジャンルはないのだ。

また、取り上げている作品の時代の幅が広いことも特徴的である。展覧会は二〇〇六年一月から開催されたのだが、最も新しいところでは二〇〇六年七月に発行された作品にまで言及されている。従来のような、古い作品を中心とした展示では、「この作品はだいたいこのあたりを描いている」「昔の町はこうだった」といった解説しかできなかったが、同時代をリアルに描写するミステリーを、しかも幅広い年代のものを扱うことで、過去から現在までの福岡を描くことができたのだ。

もちろん、このテーマを取り上げる際には高い壁があっただろう。フィクションだけならまだしも、小説の元ネタとなった、過去に実際に起こった事件についても詳しく書いてあり、「不謹慎だ」「市のイメージが悪くなる」といった見方もできるかもしれない。それでもなお、この展覧会を開催した福岡市の「福



岡を文学で盛り上げよう」という熱意が感じられる本である。

本書を携えて福岡を歩いてみよう。その場所では何が起ったのか、作者はなぜその場を選んだのか、何を描きたかったのか。こういったことを考えながら歩けば、今までは違っていたことを見えてくる。  
(河合 将彦)

**日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち** フランシスコ・ザビエル生誕500年記念稀観書展示会 展示目録 京都外国語大学付属図書館 編・刊 (〒615-0058京都市右京区西院笠目町六)二〇〇六・一一 八〇頁 一五・七×一八・一 (H1133-H15)

本書は、京都外国語大学付属図書館および京都外国語短期大学付属図書館が平成一八年一月に開催した展示会「フランシスコ・ザビエル生誕500年記念稀観書展示会—日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち」の展示資料目録である。両図書館は共同で、おおむね毎年一回、所蔵の稀観書展示会を開催しており、本展示会もその一つに数えられる。

平成一九年開催の「文明開化期のちりめん本と浮世絵」、平成一七年開催の「日本で知られたドイツの世界—印刷、宗教、科学、文学、

そして彼らが見てきた日本の姿—など、これまで開催された展示会の目録は当館でも所蔵しており、展示会の一端に触れることができる。

京都外国語大学付属図書館および京都外国語短期大学付属図書館は、我が国の対外交渉史に関する資料の収集に力を入れている。その一環で、我が国における初期のキリスト教布教関係の資料を、特に昭和四〇年代から昭和五〇年代にかけて精力的に収集した実績を持つ。現在、フランシスコ・ザビエルの伝記・書簡集、ルイス・フロイスの書簡集、イエズス会の通信・記録集などの数々の稀観書を所蔵している。今回の展示会は、これらの資料および関連資料を広く一般へ公開する目的で行われた。

本書は、展示資料の書誌事項、資料の扉部



分などの写真、解題(七〇〇字程度)が収録され、加えてザビエルの布教活動の簡単な紹介、関連の年表の掲載が行われている。写真はモノクロであるが、精細であり、資料の様子をよく伝えてくれる。解題は、時代背景等を含む丁寧なものであり、読み物としても楽しめる。

ザビエルらイエズス会の宣教師は、一五四九年八月一日に鹿児島に上陸し、キリスト教の布教を開始した。これに続き、イエズス会を中心に、ドミニコ会、フランシスコ会などの修道会からも、宣教師が日本を訪れることになった。この出来事は、西洋世界の知識人が、我が国と本格的に出会った最初の出来事とされている。宣教師たちは、我が国の広範な地域を訪れるとともに、書簡や報告書を数多く残したため、彼らの著作が当時の我が国の状況を知る貴重な資料となっている。特に、ザビエルが書簡の中で、当時の日本人を非常に優れた国民と高く評価していたことは、有名な話である。

本展示会の展示資料は、当時の宣教師たちの著作の一部であるが、彼らの活動と思索のありようを今日に伝える貴重なものもある。本書は、展示資料目録ではあるが、その息吹を感じさせてくれる。  
(三輪 和宏)

# 月例報告

三田 廣行

カレントアウェアネス 二九五号  
A 4 三六頁

## おもな人事

内閣府事務官 中田 昌和  
国立国会図書館支部日本学術会議図書館長を命ずる

内閣府事務官 植山 克郎  
国立国会図書館支部日本学術会議図書館長を命ずる

以上平成二十年一月一日付け

(副館長・総務部長事務取扱)

副館長 吉永 元信

総務部長事務取扱を解く

(収集部長)

司書 内海 啓也

国立国会図書館参事に任命する  
総務部長を命ずる

(総務部副部長)

参事 田屋 裕之

国立国会図書館司書に任命する  
収集部長を命ずる

国立国会図書館調査員に任命する

主幹を命ずる

調査及び立法考査局外交防衛調査室付を命ずる  
以上平成二十年二月一日付け

職員員の退職

(退職時部局)

調査及び立法考査局 調査員 那谷 玲

平成二十年二月二十九日付け

## 国立国会図書館の編集・刊行物

レファレンス 六八五号 A 4 八九頁

森林・林業施業法制概説

スイスの「経済に関する国の供給政策」と農政改革

内閣法制局による憲法解釈小論(短報)

アフガニスタンにおける英国の活動(短報)

月刊 一、〇五〇円(日)

A 4 三六頁

書誌コントロールの将来に向けたLCの取り組み

アフオーダンス理論に基づく情報行動研究の可能性

チャットレファレンスサービスに必要な専門的能力

ISO/TR 28118「国立図書館のためのパフォーマンス指標」制定の動き

情報倫理と図書館  
北欧のコミュニティと公共図書館  
(デンマーク・スウェーデン・ノルウェー)

行動レビュー  
情報学の知識構造を描き出す試み

研究文献レビュー  
今日の医学図書館

看護図書館  
季刊 四二〇円(日)

入手のお問い合わせ  
日本図書館協会(10-0033東京都中央区新富1-1-1四)

特に記載のないものは税込価格です。

平成一九年度日本古典籍講習会

一月一六日～一八日、東京本館において、国文学研究資料館との共催により、標記講習会を実施した。「日本古典籍の基礎知識と問題点―日本古典籍書誌記述要領―」（鈴木淳・国文学研究資料館副館長）、「古典籍の基礎知識―絵画資料（草双紙と浮世絵―）」（山下則子・同教授）、「近世の出版と流通」（大高洋司・同教授）などの講義のほか、当館における資料の電子化の紹介、目録作成の演習、和装本の綴じ方の実習等を行い、公共図書館八名、大学図書館二四名、計三二機関三二名の参加を得た。懇談会では、自館の所蔵資料や、未整理の資料、古典籍に通じた職員の見聞等の課題について意見を交換した。

終了後のアンケートには、「古典籍に関して様々な視点からの知識を得られた」「日ごろ触れることのできない資料や道具を知ることができた」「実践の内容で、今すぐ業務に活かせると感じた」といった感想が寄せられ好評で、「古典籍資料を扱う他の図書館員と知り合いになれたことがよかったです」と、参加者間のコミュニケーションも活発であった。

## 図書館間貸出制度の加入申請方法が変わります

国立国会図書館は、全国の図書館活動を援助するために、「資料の最後の拠り所」として、図書館間貸出サービスを行っています。

4月1日以降に新たに当館の図書館間貸出制度に加入申請される機関は、1枚の申請書による1度の手続きで東京本館・関西館の貸出制度、および国際子ども図書館の貸出制度に同時に加入していただく方法が変わります。

また、貸出しを受けた資料の複写利用の承認についても同様に、1枚の申請書で東京本館・関西館および国際子ども図書館へ同時に申請していただきます。

新しい申請書のひな形等の詳細については、ホームページをご覧ください。

ホームページ「トップ」>「図書館員の方へ」>「資料の貸出」  
[http://www.ndl.go.jp/jp/library/service\\_lendout.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/service_lendout.html)

なお、すでに東京本館・関西館の図書館間貸出制度についてのみ加入あるいは複写利用の承認を受けている機関が、国際子ども図書館についても申請される場合は、従来どおり国際子ども図書館長宛に申請してください。

### ■お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館文献提供課複写貸出係 TEL 0774-98-1312（直通）

国立国会図書館 国際子ども図書館資料情報課情報サービス係

TEL 03-3827-2053（代表）

## 国際子ども図書館展示会 「チェコへの扉—子どもの本の世界」関連講演会の開催について

国際子ども図書館で開催中の展示会「チェコへの扉—子どもの本の世界」に親しみ、より一層理解を深めていただくため、「子ども読書の日」にちなんで、以下の講演会を開催します。

- 日時** 4月26日（土）14：00～16：30（予定）
- 会場** 国際子ども図書館 3階ホール
- 講師** ベトル・ホリー氏（駐日チェコ共和国大使館一等書記官、チェコセンター所長）
- 演題** 「チェコの子どもと読書」  
（講演は日本語で行います）
- 対象** 中学生以上 \*定員100名
- お申込方法**

直接来館、往復はがき、電子メール  
（事前申込制、先着順）

お申込方法の詳細は、国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）をご覧くださいか、電話でお問い合わせください。



### お問い合わせ

国立国会図書館 国際子ども図書館企画協力課  
〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
TEL 03-3827-2053（代表）

### 展示会のご案内

**開催期間** 1月26日（土）～9月7日（日）

**休館日** 月曜日、こどもの日を除く国民の祝日・休日、資料整理休館日（第三水曜日）

**開催時間** 9：30～17：00

**会場** 国際子ども図書館3階 本のミュージアム

**入場** 無料。年齢にかかわらずどなたでもご覧いただけます。

詳細は国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）をご覧ください。

## アジア言語OPACでヒンディー語、サンスクリット語 図書が検索可能となりました

関西館で所蔵するヒンディー語、サンスクリット語図書574タイトル（740冊）の書誌情報を、アジア言語OPAC（<http://asiaopac.ndl.go.jp/>）に搭載しました。このうち約6割は、詩、小説などの文学作品や、文学評論です。インドの民族運動高揚期に精力的に作家活動を行ったプレームチャンド（1880～1936）など、近現代の作家による作品が中心です。

アジア言語OPACで提供する書誌情報の言語数は、すでに提供中の中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、マレーシア語、ベトナム語、ペルシア語、アラビア語とあわせ10言語となりました。原綴りでも翻字形でも検索することができます。

国立国会図書館アジア言語OPAC

国立国会図書館・NDL-OPAC・アジア情報室 | English | HELP  
All Rights Reserved, Copyright (c) National Diet Library 2002

簡易書誌一覧

資料の簡易書誌を一覧表示します。詳細を見たいは、書名等をクリックしてください。

並び替え 並び 国/種 書名 ▲ 著者 シリーズ 出版社 出版年 分類

検索条件: [ワード]書名]hindi sahitya 該当19件(確定0件)  
1件目から19件を表示中

No.	出力	照付	国種	画像	簡略情報
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	आधुनिक हिन्दी साहित्य : १८५०-१९०० ई. / लेखक. स्वामीभारत चरण्य -- ४ संशोधित एवं प्रतिवर्धित संस्करण -- दिल्ली... 1971 関西館:書庫図書 Y751-V8 83Y23777 利用可
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ग्राम-साहित्य / राममनोय चिट्तारी : ३ भाग -- भास्कर... 1952 3. भाग 関西館:書庫図書 Y751-T10 83Y16733 利用可
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	निराला की साहित्य आपदा / रामचिदानंद शर्मा : १. खण्ड २. खण्ड ३. खण्ड -- ३ संस्करण -- राजकोट... 1979 1. खण्ड 関西館:書庫図書 Y751-S33 83Y24591 利用可 2. खण्ड 関西館:書庫図書 Y751-S33 83Y24592 利用可 3. खण्ड 関西館:書庫図書 Y751-S33 83Y24593 利用可
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	भारतीय साहित्यशास्त्र कोश / लेखक. राजवंश सहाय 'सेरा' -- १. संस्करण -- दिल्ली... 1973 関西館:書庫図書 Y751-S11 83Y16713 利用可
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	हिन्दी साहित्य / श्यामसुंदरदास -- इटिच... 1969 関西館:書庫図書 Y751-S9 86Y10374 利用可

### ヒンディー語、サンスクリット語図書の検索結果表示画面

（請求記号欄にY751\*と入力して検索すると  
ヒンディー語、サンスクリット語の資料が表示されます。）



# 使う人がいる、守る人がいる。

## 第3回 利用の多い住宅地図の状態と補修対策、資料管理

45万枚、5万冊もの地図を見ることができる地図室には、毎日多くの利用者が来室します。

地図室で所管している資料は、国土地理院発行の地形図のような「一枚もの」「折り図」や「のし図」と、冊子体の住宅地図とに大別され、原則として閉架式書庫に収納されています。いずれも取扱いが難しい形態で、「折り図」のうち紙ケース（ホルダー）に入っていないものは書架に立たないうえ、傷み易いので、中性紙の封筒やパンフレットボックスに入れてあります。「のし図」は、大型キャビネットに広げたまま収めています。大量に重なっていると取り出すときに破ける恐れがあるため、引き出し一段につき40～50枚を限度とし、取扱いには慎重を期しています。



キャビネットからのし図を取り出す



破損した住宅地図

最も利用が集中する最新の住宅地図は、閲覧室の書架から自由に手に取って閲覧できます。しかし、住宅地図は大きくて重く、利用者が片手で出し入れしようとして床に落としてしまうこともたびたびです。また、指に唾をつけて頁をめくするなど心ない扱いも目立ち、ガムをつけられてしまったこともあります。

明治から昭和中期頃までの地形図や1960年代の住宅地図は劣化が進んでおり、最新の住宅地図でさえも一日数回に及ぶ複写により、長期保存が危ぶまれる状態です。軽微な破損は糊と和紙を使った早めの補修を心がけていますが、手に負えないものは補修を専門的に担当する部署に依頼します。しかし、破損資料の数が多すぎてとても直しきれないのが実情です。



劣化した地形図

地図もまた、他の図書館資料と同様に、当館で1点限りの所蔵です。数十年前の住宅地図が地歴調査に今なお盛んに利用されていることを考えると、現在だけの利用で終わりというわけではなく、未来の利用者のために永く保存していく必要があります。その点を利用される方にも理解していただけるよう、今後とも努めてまいります。

(主題情報部・地図室)

Quiet Please 静肅に願ひます



縦19cm×横27.7cm  
床からの高さ120.5cm

この看板の用途について、説明は不要でありましょう。ですが、その来歴ははっきりしません。もしやご存知ではと、人づてに何人かの元職員に尋ねましたが、見たことがあるという人はいません。当館が開館した昭和23（1948）年当時、現在の永田町庁舎が完成する前に赤坂の現・迎賓館を使用していた頃のものでは？というのが推理の落ち着くところとなりました。看板自体からも手がかりは何も得られず、その役目柄か、黙して語らずという趣です。今でこそ案内板などでの英文併記は珍しくありませんが、占領下の時代、特別な製作理由があったのかもしれない。

ところで、当館を利用するには、音の出るもの（ヘッドホンステレオ・ラジオ等）はもちろん持込禁止、携帯電話やパソコン・ワープロ等は指定の場所でのみ使用可というように、様々な決まりがあります。いずれも図書館を調査研究に適した環境に保つために必要であり、この事情は昔も今も変わりません。とはいえ、限られた時間の中であちこちのカウンターの間を忙しく移動する利用者の方々には、のんびりとおしゃべりを楽しむ余裕はなさそうです。ところが、たまに気になる話し声が…。

東京本館では利用者区域と事務区域とが完全に分けられています。私たちもこのことをしばしば忘れてしまいがちです。何のことはない会話が静かな利用者区域では声高に響いてしまうことがあるのです。かく言う私も、先日、事務区域だと思い込んで話していたところ、「奥は利用者区域ですよ」と小声で注意を受けました。実は、この看板が現在置いてある場所は、国会のための調査を担当する調査及び立法考査局の、とある課の事務室入口前。迷い込まない限り、まず利用者の方々が入り込むところではありません。この看板は、図書館で働いている私たちにも注意を呼びかけているのです。

まなご  
（眞子 ゆかり）



## 国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

利用案内 電話 03 (3827) 2069 (音声・FAXサービス)

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

**利用できる人** どなたでも利用できます(ただし資料室は満18歳以上の方)。

**資料の利用** 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

**開館時間** 9:30~17:00

**休館日** 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は除く)、  
年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)

**休室日** 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第一、第二資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

## 支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122 (代表)

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

---

### 国立国会図書館月報

平成20年3月号 (No.564)

発行所 国立国会図書館

平成20年3月20日発行 定価525円  
(本体500円)

編集責任者 矢部 明 宏

発売 社団法人日本図書館協会

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

電話 03 (3581) 2331 (代表)

FAX 03 (3597) 5617

E-mail [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03 (3523) 0812

FAX 03 (3523) 0842

E-mail [hanbai@jla.or.jp](mailto:hanbai@jla.or.jp)

印刷所 株式会社丸井工文社

---

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜すいて転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp> —「刊行物」—「国立国会図書館月報」)でご覧いただけます。

表紙 中性紙使用

本文 中性再生紙使用

## NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No. 564 March 2008

---

---

### CONTENTS

*The plays of Shakespeare* (1825) - (Random notes on rare books, 481)

- 1 Bibliographic control
  - 2 Report of the conference on bibliographic control FY2007
  - 7 Introduction of the Japanese Periodicals Index
  - 13 Progress of the retrospective cataloging of bibliographic data
  - 17 Materials recently added to the NDL-OPAC
  - 18 Basic knowledge of Unicode and the Semantic Web - report of lectures held at NDL
  - 22 Fifth mutual visit program with the National Assembly Library of Korea
- 

- 21 Tidbits of information on NDL
  - 30 Books not commercially available
  - 33 Monthly official report
  - 33 Publications from NDL
  - 34 NDL News
  - 37 People who use, people who maintain  
(3) Condition, maintenance measures and collection management of heavily-used residential maps
  - 38 Visual NDL Museum (10)
- 

< Announcement >

- 21 Announcement of regular exhibition
  - 26 Announcement of the employment examinations for FY2008
  - 34 Application method for registration for interlibrary loan service to be revised
  - 35 Lectures related to the exhibition at the International Library of Children's Literature: Door to the Czech Republic: The world of children's books
  - 36 Books in Hindi and Sanskrit now searchable on the NDL Asian Language Materials OPAC
- 
- 

NATIONAL DIET LIBRARY  
Tokyo

